

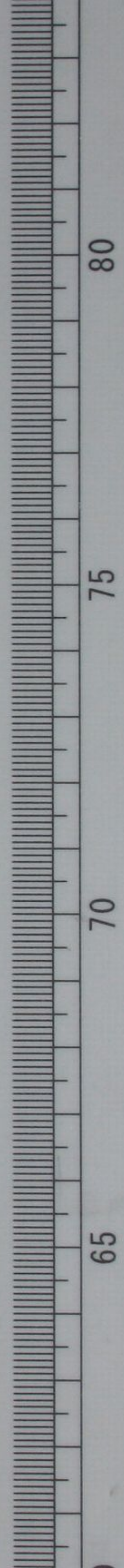


四季發回明題集

中村俊定文庫

文庫 18

842



明題畫像

評者

月院社何九先生
雪中菴對山先生

畫工

陽鳥亭 託業

筆工

和漢亭 鼠文

彫工

鐵筆樓 春水

催主

井峯閣 半亭



清花張素錦

岸柳軟系青絲

峽府洪高逸人



画像集序

甲陽為延山に化城に經る人其の山を穿るる者其の
 其の山を穿るる者其の山を穿るる者其の山を穿るる者
 其の山を穿るる者其の山を穿るる者其の山を穿るる者
 其の山を穿るる者其の山を穿るる者其の山を穿るる者
 其の山を穿るる者其の山を穿るる者其の山を穿るる者
 其の山を穿るる者其の山を穿るる者其の山を穿るる者

其の山を穿るる者其の山を穿るる者其の山を穿るる者
 其の山を穿るる者其の山を穿るる者其の山を穿るる者
 其の山を穿るる者其の山を穿るる者其の山を穿るる者
 其の山を穿るる者其の山を穿るる者其の山を穿るる者
 其の山を穿るる者其の山を穿るる者其の山を穿るる者
 其の山を穿るる者其の山を穿るる者其の山を穿るる者
 其の山を穿るる者其の山を穿るる者其の山を穿るる者
 其の山を穿るる者其の山を穿るる者其の山を穿るる者

必も一掃のふあふあは一を其力に入らぬ所前も
 既心存る古歌あはなほあは次第あは終る所は二
 清さうのあはるはとありて力もさうのあはるは
 力もさうのあはるはとありて力もさうのあはるは
 二條殿御代官月院社大京匠
 行年四百子十甲子何丸

十三夜
 雞啼一也中おのる月入るそと



月
 月
 雪
 五月のあはるのそと
 日暮可南

琴雅君









月
 外を折
 花の枝

番采
 玉彦



月
 更
 物
 出

遠中泉
 紫芝齋



月
 美
 折
 大
 花の中

越後
 鷗齋



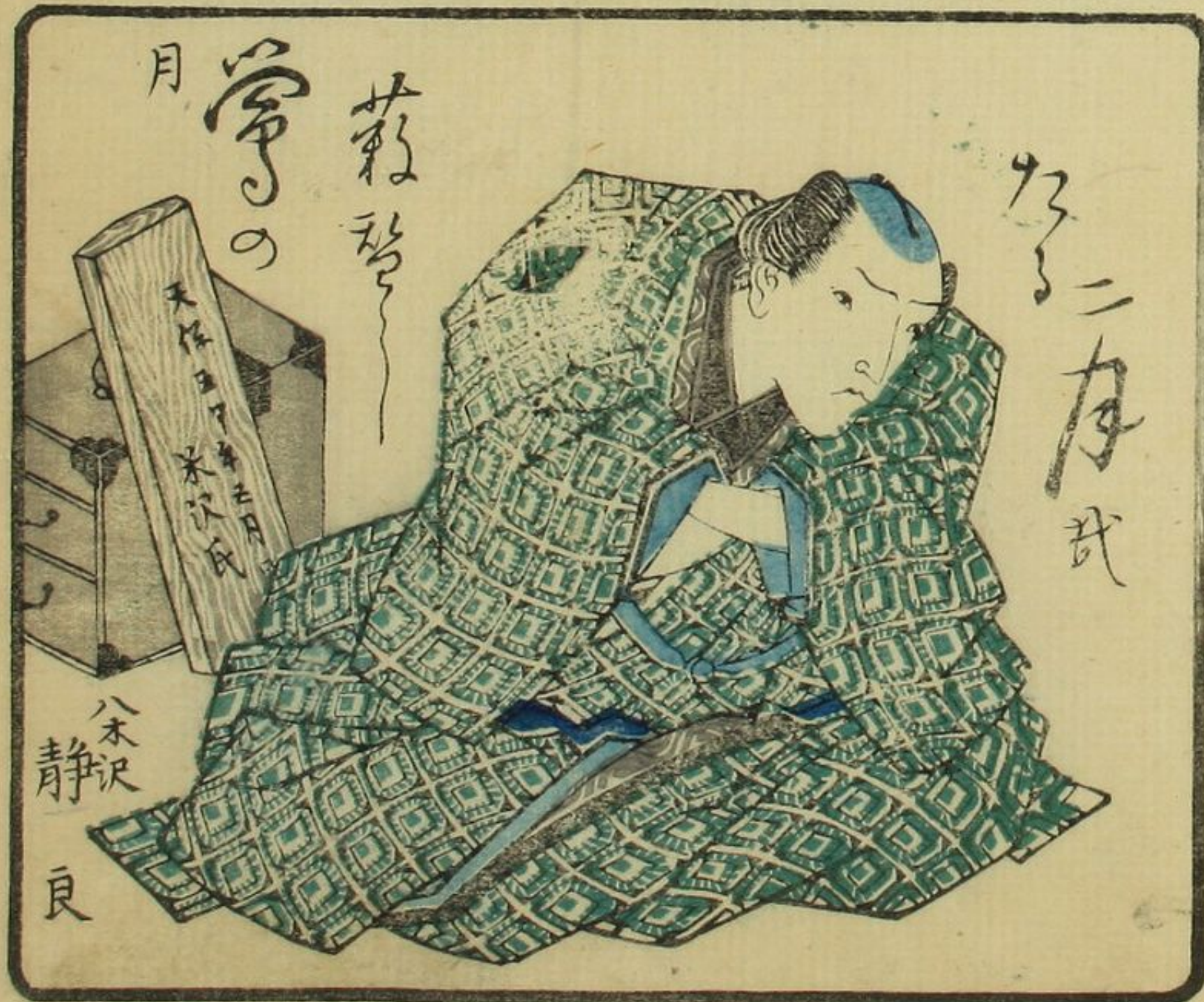
月
 百
 山
 重
 九
 空
 小
 為

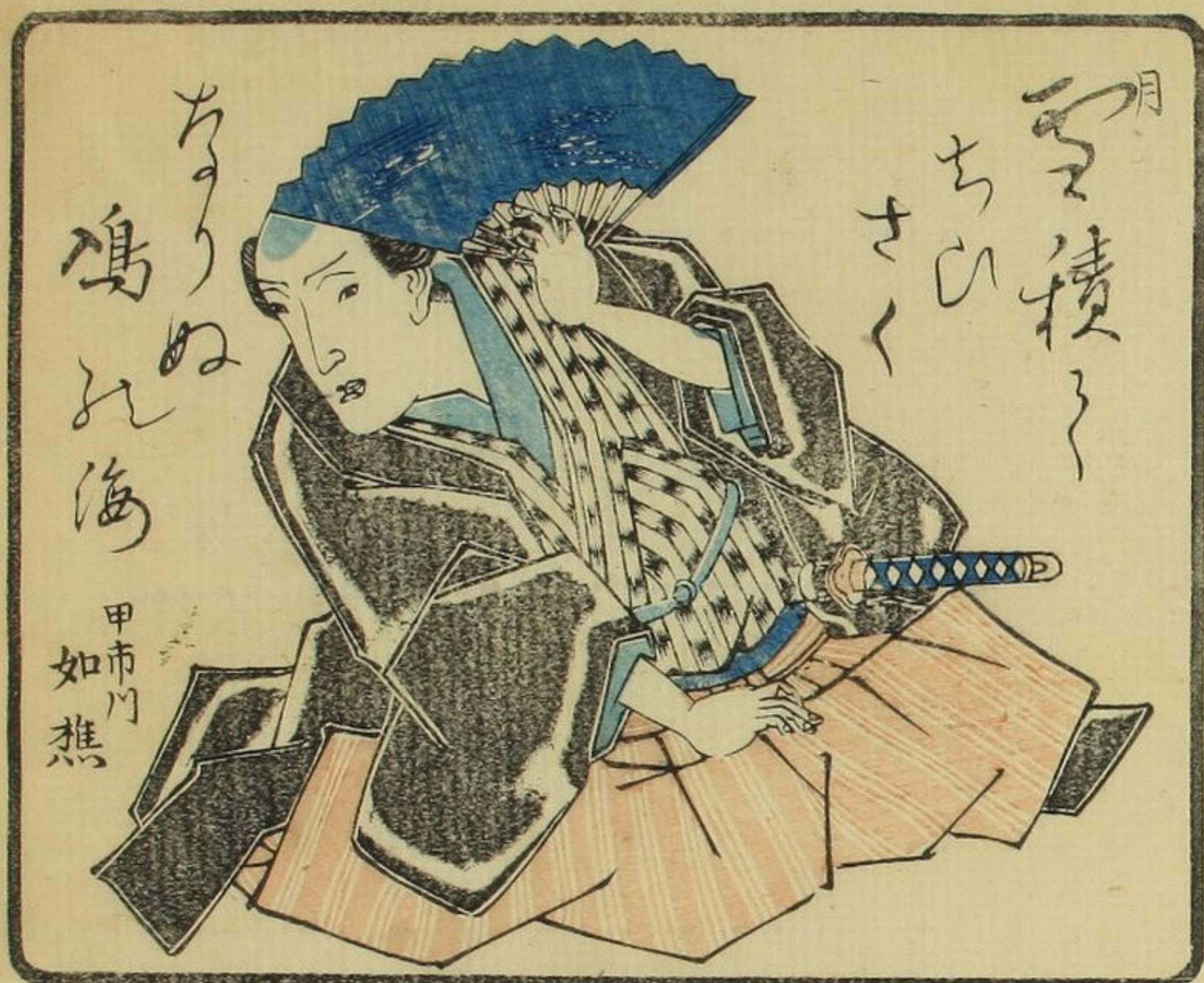
常芝高
 柳至











あつね
鳩
海
甲市川
如熊

月
雪
積
ちひ
さく



甲教
素石
柳

雪
是元
峠
あつ
り
ほろ
り
あつ



月
盆
土
張
繩
舟

五月
雨
常土浦
旧橋
たけ
物

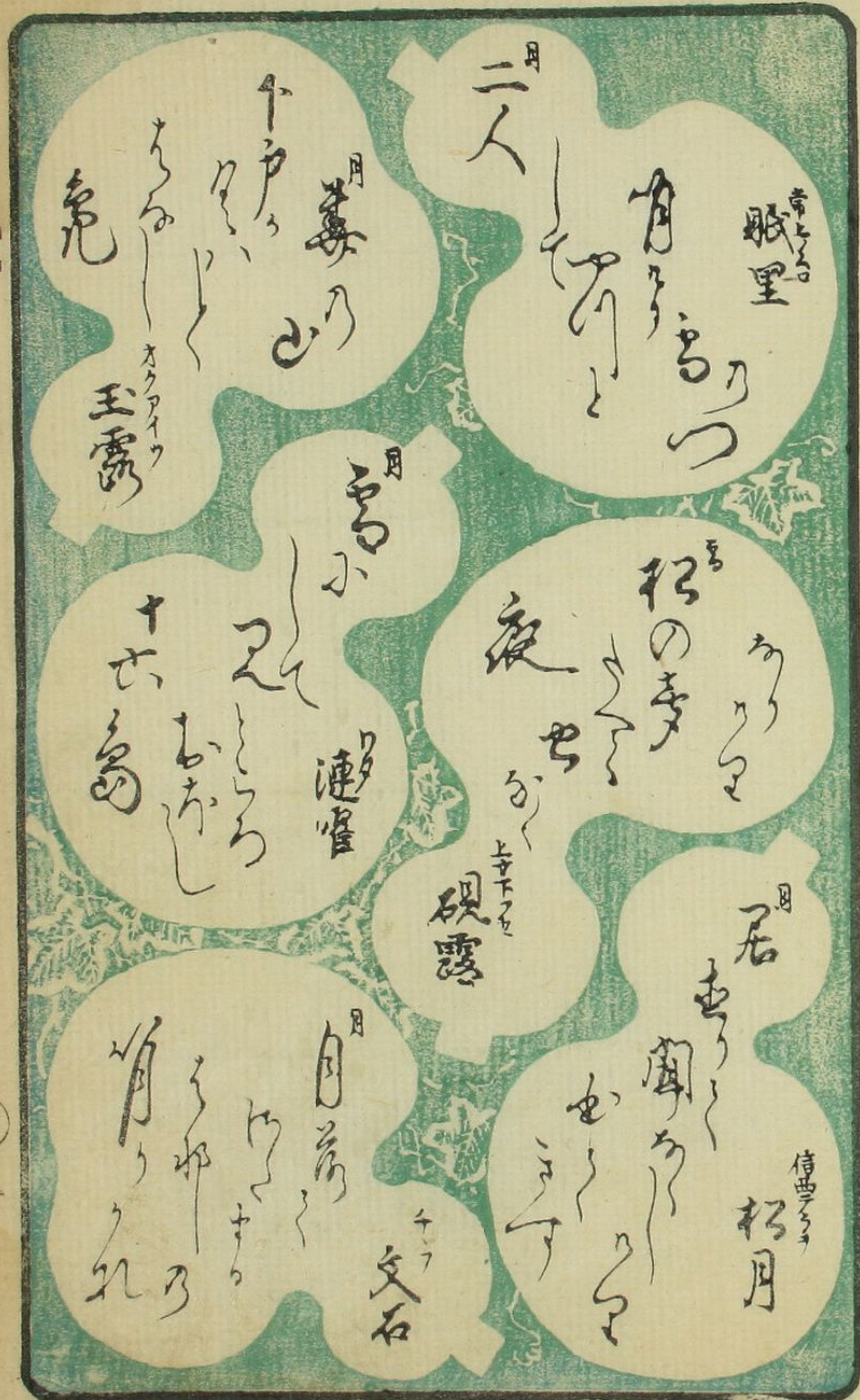


雪
あつ
り
上
あ
松
あ
り
林
山









信ノナカ

二河 七

風

月

対鶴

松乃月

羽孔

梅旭

山

月

秋

月

利

不

一亭

涼

月

信ノナカ

吐月

善の

月

衣礼羽

可叶

面

月

中

三

泉

于

林

月

松

月

兩

信ノナカ

我

善

信中条

風月

あつたみち

念のこころ

あつた

あつた

十雨

あつた

あつた

あつた

あつた

蒼布

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

馬丘

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

月 聖の一高 上毛屋下

あふりや

蓋 月

あふりや 月芳

梅鳥 月

源 月

松 月

工下 渡辺子

晴美

か 月

常 月

聖 月

常 月

蘭 月

宿 月

濱 月

あふりや 月

里桂 月

漱田 月

郭 月

月 納 月

あふりや 信平 月

善 月

あふりや 武平 月

あふりや 七世

後 月

あふりや 信平 月

松 月

二 月

似 月

乳 月

信ノサハ
夢泉

風
枝

枝

信ノサハ
夢泉

月
花

花

心
うき

林
心

月
し
中

中

上毛大ツカ
磯

出カサ
梅園

月
梅

花

花

花

月
二羽

二羽

梅
枝

信上田

入

月
曲

曲

曲

曲

常牛又
英心

英心

英心

高

高下リ
鳥朝

鳥朝

鳥朝

月
庭

庭

庭

庭

甲小曲
三魁

高
若

若

若

一亭

梅
旭

梅
旭

梅
旭

梅
旭

月 天使乃
 月 始乃
 月 霜乃
 月 義乃
 月 枝乃
 月 黄乃
 月 文乃
 月 以乃
 月 羽乃
 月 雨乃
 月 霜乃
 月 文乃
 月 以乃
 月 羽乃
 月 雨乃

信秋戸
 輪石
 信上田
 文健
 信下フセ
 羽半愧

月 枝乃
 月 一乃
 月 之乃
 月 天乃
 月 積乃
 月 春乃
 月 日乃
 月 日乃

上井下フセ
 金砂
 信上田
 石磐
 信上田
 春旭
 信下フセ
 古夢

雪の

目

花中

花

郭公

松原

真心

人の氣

大

貝

花

夕

一井

船

碎

涼

月

月

古柳

の

古柳

九

寒

一亭

積

知

出

今

女

一

信

四

根

根

二

教

柳

露

オカ子

六師

月 鄭公
甲や今 霖心
いしせく
油以ハ
月 声乃
か外
半亭
井戸
山崎ハ
鳥の
梅旭
月 森入
二景
月 八不

月 静凡
月 出
二景
月 梅鳥
月 澄心
月 一亭
月 松尾
月 静凡
月 澄心
月 一亭
月 松尾



郭公愛りていりて字は乃也

月院社執事

三有



花

月院社先生評

少きしちのそよはくせし向を
 登んては枝は泣きけり
 けりうにせをいもわ
 ちちついにわぬれぬわ
 大川乃向ふにえわ
 ちのそよにむむ
 ちり移るも乃高吟や志笑乃里
 口入りはくせし
 ちのそよにむむ
 ちのそよにむむ
 さし生しちのそよにむむ
 さし生しちのそよにむむ

了林中

ハキ井

敬亭 歆石 雀守 月 麻業
 義系 和厚 林岩 紫岩 兩光 梅馬 二葉

英一も英敵乃折ふを是んくれ
 七さの休家も是乃本乃る式
 采つと中を乃海をせさ入く
 むらふとそれ月さすを乃山
 至扉一は本乃上乃信りす
 れて事と也乃をいぬら口式
 ちるもさ乃風もさるう出はり
 うはさるう又ちか守乃さる式
 事の人と折人とのさるう式
 松一本りさしにち命也乃山
 司乃心とさしちり舟もさる
 うれりささせを余下して也又式
 是乃心と初てよりは是怪
 居賊りせしてわらんや也乃を
 うの事とを上に思くは是はれ
 也乃心と也乃折乃やとらら
 五さる人折くやとれ乃山

カッ子、小童、信イ、信イ、川ムキ、ナヒカ子、信イ、セキヤハ、三ノイ、カクミハ、コヒワ

本堂、湖雀、李鳳、花森、梅旭、唯露、月九、柳雨、葉南、月九、雀、對、深、玉露

辰

山甲申をれは一本乃ゆりまア
 ちれ乃心と折らるうわさりり
 いさしを月アれれは一もさし
 更しまらん人なるとれ乃径ら

カッ子、小童、市川

考以、如、梅旭、一亭、二月、月九、麻業、松山

郭公

坂森の春に是りけり
時よりすそこれなむ
郭公の春に是りけり
時よりすそこれなむ
郭公の春に是りけり
時よりすそこれなむ
郭公の春に是りけり
時よりすそこれなむ
郭公の春に是りけり
時よりすそこれなむ

信方
信方
信方
信方
信方
信方
信方
信方
信方
信方

文王
高松
月若
奇王
松井
雨晴
家好
善好
鳳好
賞好
西好
雲好
松好
金好
殿好

郭公の春に是りけり
時よりすそこれなむ
郭公の春に是りけり
時よりすそこれなむ
郭公の春に是りけり
時よりすそこれなむ
郭公の春に是りけり
時よりすそこれなむ
郭公の春に是りけり
時よりすそこれなむ

信方
信方
信方
信方
信方
信方
信方
信方
信方
信方

文王
高松
月若
奇王
松井
雨晴
家好
善好
鳳好
賞好
西好
雲好
松好
金好
殿好

知系

下へくも何ん系乃中キツし乃寺
 挑灯くじり乃花つてけ乃れ
 風呂さつし乃鐘はくや乃声
 しし乃い乃ぬ乃らん乃藤乃
 ち乃く乃黄乃落乃と乃の乃響乃一乃定
 出乃る乃た乃か乃い乃は乃の乃あ乃き乃庵乃り
 じ乃ら乃減乃高乃に乃と乃れ乃る乃じ乃り乃声
 其乃中乃い乃じ乃し乃補乃ら乃る乃寺乃細乃し
 さ乃向乃く乃り乃こ乃ろ乃ん乃ん乃や乃ま乃し乃の乃寺
 せ乃鳴乃や乃ま乃系乃が乃る乃れ乃久乃し乃あ乃り
 乃り乃く乃と乃の乃聲乃ふ乃る乃乃を乃む乃り乃声
 信ヲフ
 エト
 下キイ信
 信ヲラフ
 フイハ

林光心
 梅旭
 繁水
 柳映
 切竹
 不羊
 東章
 王彦
 菅老
 一文
 一井
 一文
 荒引

信スナカ
 信ヲラフ
 カトノ
 長チハ
 常ト台

兵權君
 心為
 一寅旭
 保里
 白鶴
 二系
 景石
 一亭
 對旭
 芦江

水

花の津不入り...
 不男らよ...
 し...
 う、舟...
 昔...
 ろ...
 月...
 水...
 掃...
 啼...
 巾...
 新...

信取テ
 アキラ
 カミカ
 ホリカ
 西
 其雅君
 古
 秋
 心
 河
 白
 東
 梅
 玉
 南
 瑞

茶

雲中菴先生評

連...
 ち...
 お...
 難...
 巾...
 ち...
 入...
 ち...
 を...
 顔...
 ち...
 と...
 之...

梅
 二
 一
 一
 柳
 露
 異
 理
 用
 王
 月
 花
 水
 岩

鹿

花りけし鹿のきりりきりきり
鹿一りり入りてかきて鹿守り
鹿守り久のきりやかきり夕鹿
鹿守りもきりいもかきり夕鹿
鹿守りもきりいもかきり夕鹿
鹿守りもきりいもかきり夕鹿
鹿守りもきりいもかきり夕鹿
鹿守りもきりいもかきり夕鹿

鹿守り

塊翁

石盤

鹿守り

金砂

十月

雪

雪守りもきりいもかきり夕鹿
雪守りもきりいもかきり夕鹿
雪守りもきりいもかきり夕鹿
雪守りもきりいもかきり夕鹿
雪守りもきりいもかきり夕鹿
雪守りもきりいもかきり夕鹿
雪守りもきりいもかきり夕鹿
雪守りもきりいもかきり夕鹿

雪守り

鹿守り

鹿守り

鹿守り

鹿守り

鹿守り

郭公

郭公守りもきりいもかきり夕鹿
郭公守りもきりいもかきり夕鹿
郭公守りもきりいもかきり夕鹿
郭公守りもきりいもかきり夕鹿
郭公守りもきりいもかきり夕鹿
郭公守りもきりいもかきり夕鹿
郭公守りもきりいもかきり夕鹿
郭公守りもきりいもかきり夕鹿

郭公

二

二

二

二

二

七

けりてふちりうくやうきり店
しり中今なきかきぬし久し
林ありくちまき松へちり声
ちりくくちまき切る声
つりてすす尾さきくつり声
以りり吹込中吹こい

月島
東彦
吾雅君

雪

そのつらぬるく雪うきまら
美座の川りりりりり

玉斗
吾雅君

雪

言ひつらぬるく雪うきまら
松竹の人雪うきまら
あつらひつらぬるく雪うきまら
あつらひつらぬるく雪うきまら
あつらひつらぬるく雪うきまら
あつらひつらぬるく雪うきまら

松旭
吾雅君
斗友
心是

神系 二三寸 赤うじや 神々 笛

水鳥 風をけしつらぬるく雪うきまら
あつらひつらぬるく雪うきまら
あつらひつらぬるく雪うきまら
あつらひつらぬるく雪うきまら
あつらひつらぬるく雪うきまら
あつらひつらぬるく雪うきまら

あつらひつらぬるく雪うきまら
あつらひつらぬるく雪うきまら
あつらひつらぬるく雪うきまら
あつらひつらぬるく雪うきまら
あつらひつらぬるく雪うきまら
あつらひつらぬるく雪うきまら

吾雅君
一松
柳心
菅山
文王
草芦

世に金巻物に
 集るは本頃の
 持て居るは
 此の世に

月十卯
 尊似くもれ又心よりありにりり
 吹列のあつるをり乃思ひ
 七卯
 教わにに教行ちつて居る乳
 聞つれ乃事くさうぬ若や時
 さアて乃わらわハ昔のまをる乳
 聖タカ
 大乃子のまといもや教さう
 妻くさい若よゆくや行くま
 吸筒をたたくもれ乃成る乳
 ちのほろ月日乃色くしりれ
 ちのりハち乃事く居る乳
 粒乃あれく出らるる乳

催主
 半亭

未休 保 文 文 文
開 文 文 文 文 文
中 文 文 文 文 文
中 文 文 文 文 文
中 文 文 文 文 文

德國 文 文 文 文 文
力 文 文 文 文 文
力 文 文 文 文 文
力 文 文 文 文 文
力 文 文 文 文 文

如 秋の香に 秤 秋の香に
 如 みみけ 秤 秋の香に
 き 中 有

井澤 増 隆
 研 什

作者 四百 余人
 句 員 五千 余 吟

天保五年秋上梓
 半亭藏板

天保五年秋上梓
 半亭藏板

